

「ヒトゲノムの分子遺伝学」

Principles of Medical Genetics, 2nd ed.

Thomas D. Gelehrter, Francis S. Collins, David Ginsburg 著
清水 信義 監訳

京都府立医科大学名誉教授, 京北病院院長

阿 部 達 生

このたび医学書院から出版された清水信義監訳「ヒトゲノムの分子遺伝学」は、初心者にも最先端の内容が十分理解できるように入念に配慮された優れた入門書である。

著者の一人, Francis Collins らは, 1989 年, ポジショナルクローニングによって白人に多い嚢胞性線維症 (GF) の遺伝子をクローニング, 塩基配列の決定から機能解析を一挙に行い, さらに, 遺伝子診断で白人患者の 70% で同じ突然変異 (ΔF) が認められることを発見して報告し, 世界を驚かせた. デュシェンヌ型筋ジストロフィーとハンチントン舞蹈病でもあい前後して遺伝子が単離され, 原因となる異常が同定された. これら 3 つの疾患でなされた研究のストラテジーと成果は人類遺伝学史上, 長く記憶にとどめられるものであり, その後に展開したヒトゲノム

計画の推進力になったと思われる.

現在出版されているヒトゲノムや分子遺伝学に関する多数の専門書の中で本書がきわだってユニークな存在であるのは, これら epoch-making な成果を vivid に再現させて, ゲノムプロジェクトの完成に向けた分子遺伝学の必然的な展開を記述しているからであると思われる.

一方, 遺伝地図作成に必須な連鎖と組替えの理論や Hardy-Weinberg の法則とこの法則を乱す要因など形式遺伝学に関する記述についても, 連鎖と連鎖, 創始者効果, 連鎖不平衡などなど, 耳慣れない遺伝学の用語や多因子病の遺伝子解析に用いられる sib pair method の解説など実にわかりやすく記述されている.

筆者が専門とする細胞遺伝学や癌の遺伝学に関しても, 紙面はけっして多くないが, 非常に重要な知見が

有機的に盛り込まれているのに驚いた次第である. したがって, 最新の教科書でありながら, 本書にはかしこまった教科書の枠組みが感じられず, contemporary で魅惑的な科学物語であるような印象を受ける. 読者の多くはその魅力にとりつかれて一気に読了してみたくなるだろう.

清水教授らの和訳にはバタ臭さがなく, 的確で読みやすい文章になっている. 訳書を作るときの苦痛を味わった者として, 本書の訳者の方々の苦労に同情し, 感謝の意を表したい. 分子遺伝学を学ぶ臨床医にとってすばらしい教科書であると言える.

● A 4 変型 頁 408 図 267
カラー写真 7 表 42 2001 定価
(本体 12,000 円 + 税) 送料実費

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)